令和3年度学校経営計画表

1 学校の現況(2021年5月1日付)

学校番号	125	学校名	水城高等学校		課程	全日制	学科	普通科	理事長	山野内 吉明	
校長	小田部 幹夫		副校長	稲葉 節生		事務局長	加茂川 裕昭		事務長	鈴木 利久	
教頭	多賀野 雅章		檜山 敏明		荒川 伊望		システム管理室長	多田 昌弘		所在地：水戸市白梅2-1-45	
教職員数	管理職 8	教諭 77	養護教諭 1	常勤講師 9	非常勤講師 25	ALT 1	事務職員 8	技術職員 1	カウンセラー 1	寮母 1	教職員計 132
生徒数	1学年		2学年		3学年		全学年		1学年13クラス 2学年14クラス 3学年15クラス	42クラス	生徒計 1576
	男	女	男	女	男	女	男	女			
	284	190	339	215	341	207	964	612			

2 目指す学校像

○学力の向上を図り、グローバル化・多様化する社会に通用する人材の育成を目指す。
○主体的に学び、活動する姿勢を育み、自ら考え、判断し、行動できる人材の育成を目指す。
○部活動等の課外活動に意欲的に取り組み、活力ある学校を目指す。
○健全な道徳観を有し、敬愛・友愛の情をもって他者と協調し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学習・進路指導	授業の質的な向上、朝夕の課外学習、面談・個別指導の効果で、昨年度より多くの大学合格者が出た。医学類2名を含めた筑波大10名、東北大10名、茨城大50名のほか、京都大・東京工業大・名古屋大・北海道大・旭川医科大等国公立大学・大学校には188名、早稲田・慶應義塾等私立大学には827名(うち短大12名)が合格した。医学部医学科には国公立立合わせ11名、薬学部には23名が合格した。大学入学共通テスト最初の年で健闘した。また、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染防止のため臨時休校とした期間に、本校独自のシステムを活用した「遠隔授業」を効果的に実施でき、非常時の対応として生徒・保護者に評価されている。探究学習の場である「SY研」を一層充実・発展させ、新入試に対応すべく動いている。	本校独自のICT環境をさらに効果的に生かし、生徒の主体的で創造性のある深い学びを促進する。引き続き、コース制をはじめとして、一人ひとりの進路希望をかなえる教育を実現すべく、学習・進路指導に確実に取り組み、国公立立大学への合格率の上昇や、進学内容の充実を図る。
生徒指導	昨年度同様、基本的な生活習慣を身に付けさせるべく、頭髪・服装指導や交通安全について指導するとともに、日常から挨拶の実践やマナー意識の向上を涵養することで、生徒は全体的に落ち着いた生活を送っている。教員が共通認識を持ち生徒に公正に接し、定期的な意識確認を行いつつ、心の問題やいじめ防止に常に留意し、生徒の急な変化に対する適切な支援を心掛け、今後も研鑽を積み、実践していく。	交通ルール遵守を徹底し、SNS利用時のメディアリテラシーの向上を図る。成年年齢18歳の時代に相応しい常識・態度を身に付ける指導を行い、品位ある態度の育成を図る。
課外活動・特別活動	男子駅伝が12年連続15回目の全国大会出場を果たし、アーチェリー・空手道も全国高等学校選抜大会等に出場した。書道・写真も全国総合文化祭に参加した。県内で、硬式野球はベスト8、女子駅伝は準優勝、女子バスケットボールは3位となり、軟式野球は3ブロックの一つで優勝した。競技かるた同好会が新人大会で個人が準優勝する等各部・同好会がコロナ禍による制約の中でも努力を重ね活動している。生徒会や各種委員会も、特に健康管理に配慮しつつ、主体的な活動の幅を広げようと工夫し活動している。	学業と部活動の両立を図り、創意を重んじ、他者を敬愛し、不屈不撓の生きる力を身につけた生徒を育てる。生徒会や委員会活動・校内外の諸活動の推進を図り、生徒の主体的な活動を支援すべく可能な工夫をする。

4 中期的目標

1 ICT教育を充実させ、主体的で深い学びを実践し、学習意欲が高く活気にあふれた生徒の集団とする。
2 継続的に高い進学実績を積み重ねることで、確固たる進学校を目指す。
3 安心で安全な落ち着いた環境の下で有意義な学校生活を送ることができるよう、生徒指導・生徒支援を徹底する。
4 新型コロナウイルス感染防止等健康管理に十分配慮しつつ、部活動や校外活動等に有意義なかかわり方をさせる。
5 学業と部活動をとおして心と身体のバランスのとれた人材を育成する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
授業の質の向上を目指す。	タブレット導入5年目。全生徒がタブレットを所有する充実したICT環境の中で、コロナ禍でも継続的に主体的で効果的な学びを実現し、大学入学に対応できる学力を身に付けさせる。
	十分な教材研究を積み、教員間で授業見学を行ったり、コロナ禍の下、安全に十分配慮しつつ、外部の情報を受け入れたりすることで研鑽し、質の高い授業を展開できるよう努力する。
	生徒からの授業アンケートの結果を指導に生かし、常に授業の改善・工夫に努める。
きめ細かい進路指導を実施する。 国公立・難関私立大学等、希望する大学に多数の合格者を出せるよう努力する。	個別面談・LHR・集会をはじめとして、学校生活の各場面で生徒をよく観察・把握し、生徒の適性や希望に応じたきめ細かな進路指導を工夫して行う。
	コロナ禍でも、安心安全に十分配慮し、可能な範囲で、各種講演会や各種研修会を実施し、教育の現状や実態を十分理解して、幅広い見識をもって進路指導にあたる。
	新入試問題の傾向分析と模擬試験結果の分析を、定期試験・達成度確認試験の作問のスキル向上に活かし、日々の学習活動や放課後ゼミ活動をとおし、生徒の学力の増進を図る。
生徒が落ち着いて学習でき、安心して安全に学校生活を送れるような環境を整える努力をする。	多様化する生徒の実態を踏まえて、教職員チームによる支援体制を整え、引き続き、進路変更の防止を目指し、生徒が充実した生活を送れるよう必要な研鑽を積み、対応する。
	通学路での交通安全指導により、交通ルール遵守と公共の場でのマナーを身に付けさせることを含め、成年年齢18歳の時代に一人前の社会人としての資質を備えられるよう研鑽する。
	情報化社会を生きる人間としての自覚を持たせ、SNS利用時の注意点などを踏まえたメディアリテラシーをしっかりと身に付けさせられるよう工夫する。
	普段から生徒をよく観察し、また面談やアンケートを活用し接していくことで、いじめの早期発見・未然防止に努める。
募集広報活動を充実させる。	本学の教育理念に共鳴する入学者を確保するために、組織的・計画的に広報活動をする。
特別活動を活性化させる。	コロナ禍の中でも、安全に部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、学業と両立し、充実した高校生活を送れるよう支援する。
	清掃等の奉仕活動を通して公共心や社会性、他者を思いやる気持ちを養うとともに、環境問題を考えるきっかけを与える。
	生徒会や委員会等で、生徒がより主体的に活動できるよう、適切な助言・支援を行う。